

6156 エーワン精密

林 哲也 (ハヤシ テツヤ)

株式会社エーワン精密社長

標準品・特殊品とも高品質・納期短縮への注力で受注高は堅調

◆当社の事業概略

当社は、自動旋盤に使われるコレットチャックの製造・販売、切削工具の再研磨および特殊切削工具の製作、自動旋盤用カムの製造・販売という三つの事業を展開する会社である。これらは、製造業のさまざまな部品加工のうち、特に工作機械、小型自動旋盤、フライス盤、マシニングセンターなど、部品を切削して加工するほとんどの場合に使われる機械で、その機械につける工具、つまり汎用的に使われてかつ消耗品となる工具に特化した事業を行っている。特に精密機器、電子部品、医療機器、測定器などの精密加工は自動旋盤用カムとコレットチャックが該当し、主に量産品の加工をやっている。自動車、航空機、発電機、工作機械、あと専用機などの、精密ではあるが大きい部品の加工は、フライス盤やマシニングセンターを使って切削されるが、ここに切削工具が使われている。

なぜコレットチャックや切削に特化しているかということ、非常に種類が多く、さらに使われる状況に応じて少しずつ仕様が変わるなど特殊性が強く、また1本当たりの注文量が少ない多品種小ロットという分野で、大手企業や中小の同業他社が参入しにくいニッチ市場を狙っているということが当社の特色となっている。

コレットチャックというのは、手のひらに乗るような比較的小型の精密部品の加工、例えば、時計の小さなシャフト、ピン、ネジなどの加工をする小型自動旋盤に使われるもので、シチズン、ツガミ、スター精密のコレットチャックおよびガイドブッシュは当社の工具で、現在では売上の7割を占めている。

小型自動旋盤の市場規模としては、2011年で推定約760億円ということで、そこに使われる工具としてコレットチャックは20億円強から30億円の後半という市場規模とみている。さらに当社で特殊コレットチャックと呼んでいる分野もある。小型自動旋盤に限らず、材料を回転させて加工する場合に、精度の高いコレットチャックが必要という顧客からのオーダーでつくるタイプのもので、この分野も増えてきている

切削工具は主にフライス盤、マシニングセンターという機械で使われる材料を削る工業用の刃物である。旋盤の場合は材料が回転して刃物が静止しているのに対して、フライス盤、マシニングセンターは固定した材料を回転する切削工具で削るものである。市場規模としては、2011年時点でマシニングセンターが4,000億円強、フライス盤が175億円というところである。そこに使われる高価な刃物である超硬エンドミル、超硬ドリル等の再研磨というのが当社の切削工具の中の一つの事業分野になっている。

超硬エンドミルは338億円、超硬ドリルは278億円、合わせて600億円という市場であるが、再研磨の単価は安いので、こちらの市場規模としては3割ぐらいの180億円から200億円ではないかとみている。

マシニングセンターのメーカーとしては、オークマ、ヤマザキマザック、森精機、牧野フライス、キタムラ機械等々があるが、こうしたところの機械が販売されることによって、当社の切削工具、再研磨および特殊切削工具も付随して販売されていくという形になる。

また再研磨に加えて、国内では、数は多くないが非常に複雑な加工をするケースが増えていて、それに対応するための特殊切削工具の製造にも3年ほど前から進出している。顧客のニーズに応じて当社で刃物自体を設計・

製作できる機械を備え、特殊な工具を短期間で、しかも1本から受注できるということで、埋もれていた市場が開拓されつつあると考えている。

自動旋盤用カム部門はもともとスイスの時計部品の製造からスタートした機械で、精密な小型部品の大量生産には向いているが、これ自体が既に生産中止になっており、NCのコレットチャックを使用する小型自動旋盤に切りかわりつつある。したがって国内に現存するカム式旋盤の台数自体は限られている。また調整には高度な職人技も必要などころから、大量生産が必要な海外の会社に販売する場合と、カム式の機械を置く余裕のある大手企業が必要なときのみ動かすという形で現存している部門であるため、売上は年間50百万円程度であり増減の動きはない。

◆2012年6月期の決算状況

当期は売上高18億76百万円(前期比3.8%増)、営業利益4億84百万円(同1.7%減)、経常利益5億13百万円(同0.3%減)、当期純利益2億84百万円(同5.6%減)となっている。

リーマン・ショック後ほぼ1年で、量産加工をしている顧客企業では以前の水準の7~8割まで戻り、現在は横ばい状態というのが国内の製造業の状況である。中で特に自動車等の大手企業がコストの削減に力を入れて増益基調になってきており、12月あるいは3月決算に向けて、予算の消化を含め、売れ筋商品に攻勢をかける意味で増産をしているところから、当社でも12月・3月末に仕事が増えて比較的堅調に推移した。この景況感回復の影響で車以外の消費財を買う動きも出てきて、見通しは明るくなっている。設備も、稼働率の上昇につれて、海外はもちろん国内でも増産・効率化のための設備に関連した発注が12月・3月には集中した。ただし5月・6月になると中国の景気減速、ヨーロッパの金融不安の影響が出始め、当社の売上に関しても若干頭打ちの感が出てきている。トータルでは、売上自体は微増ながら前期を上回る形で当期をしめくくった。

原価に関しては、震災後コレットチャックの工場が15%の電力削減対象となり、急遽太陽光発電の設備を2億46百万円かけて設置した。これに関しては、機械の電源補助という意味合いで付属品扱いとし、10年の定率法償却を選択して償却がかなり落ちている。その影響で減価償却費が前期の2億16百万円から当期は2億91百万円とかなり増えた。今期は2億70百万円ほどになると予定している。利益に関しては、減価償却費、固定費が増加した中で若干ながら利益率は低下している。

部門別での売上の状況としては、主力のコレットチャックに関しては、量産品の標準的な加工は海外生産が主で、国内は複雑な加工の特殊品が増えている。今直接海外に売っている比率は10%ほどであるが、国内大手企業が国内工場調達して海外に送っている分や国内の商社が海外企業に送っている分もあり、基本的には海外で使用されるコレットチャックの比率は3割近いものになっている。

切削工具は特殊品の注文のほか、当然標準品の再研磨もあるので、相乗効果で両方とも伸び、前期比で14%ほど売上が増加した。

自動旋盤用カムは、国内現存の機械の減少で前期比8%減。もともと予想していた50百万円程度の売上で推移するとみている。

財務の状況では、約5億円の設備投資があり、前期の利益の積み上げ分を上回る出金となったため現預金が若干減った。売上債権は増加、棚卸資産は仕掛品が若干増加となり、有形固定資産も設備投資した分が増加し、資産合計は73億60百万円となっている。負債に関しては、未払い法人税が1億20百万円ほど減少している。太陽光発電設置に際し、税務上当期に全額即時償却が可能という制度を採用したことによる。会計上は従来どおりの会計方法で利益の金額を算出しており、純資産合計は68億78百万円となっている。

◆今後の事業展開

コレットチャックは、海外向けの量産品をできる限り早くいいものをつくることと、国内向けの特種オーダー品については、1 からつくる関係上納期が延びがちな点を改善することに注力していきたい。特種品への対応でここ 4～5 年新規の機械も入れ、旧型のものも修繕して新しい性能に変えており、人材の補充も行ってきた。したがって今期は大きな設備投資の計画はない。

切削工具部門については、安全性が重要な車の部品等、加工のうるさい、厳しいものが国内に残っており、海外よりも難易度の高い加工のものが残っている。ただしこれらは小ロット、中ロット、もしくは単品加工ということで、やはり仕事の量自体は減少している。一方、海外に工場をつくる日本企業は、設備を国内で製作してもっていくケースが多い。その際単品加工で標準的な切削工具も幅広く使っているので、これらの再研磨および特種刃物のニーズは強くなっている。当社は現在再研磨用の機械を 33 台、特種切削工具用の製作機械を 7 台備えており、さらに受注状況に応じて増やすことも考えている。品質維持はもちろん、特に納期について顧客の期待に応えるべく努めたい。

◆質疑応答◆

足元の状況はどんなぐあいかわかりたい。

今のところ今期のスタート時と同レベルで推移しており、当期比で若干減という状況である。これまで大手企業の量産工場などでは、夏期休暇や正月休みに設備のライン変更等を行っていたが、近年は必要な部品だけを変えとか平日にやるという形になっているため、8 月は多分売上が若干減るとみている。

切削工具の実績で、特種品と再研磨の伸び率とか割合の説明が欲しい。

特種品と再研磨の比率に関しては、特種品でも再研磨があったり、再研磨の中でも特種品に近いものがあったりで入り組んでいるが、特種切削工具の売上はおよそ 70 百万円、残り 4 億円強が再研磨という形になる。

太陽光発電の設備導入で電力費はどれくらい節減できたのか。

当社の電力費は前期で年間 4,140 万円、太陽光に変更した当期は 4,055 万円で、約 100 万円下がったことになる。燃料調整費等の関係でこれくらいになっているが、もし太陽光にしなれば 2 割以上電力費は上がったはずなので、数字面では若干ながら効果があったと言える。

(平成 24 年 8 月 31 日・東京)

* 当日の説明会資料は以下の HP アドレスから見ることができます。

<http://www.a-one-seimitsu.co.jp/20120831.pdf>